

(別紙4)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	鳥取県立総合療育センター 医療型児童発達支援センター のびっこワールド			
○保護者評価実施期間	2025年2月17日 ～ 2025年3月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	令和7年2月4日 ～ 2025年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○訪問先施設評価実施期間	2025年2月17日 ～ 令和7年3月7日			
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2	(回答数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
--	--	-----------------------	----------------

1	多職種が連携し、こどもの発達や生活に沿った支援を行うことができる	・こどもの状況や保護者、訪問先のニーズに対し、直接園を訪問し、具体的に助言を行っている。訪問時の様子を報告書にまとめ、部内で共有している ・訪問以外に適宜、電話連絡で普段の園生活や家庭での様子を情報共有している ・多職種（PT,OT,ST,看護師,保育士,児童指導員等）で連携した支援を行っている	・引き続きニーズに沿った訪問員の配置とタイムリーな支援に繋げるための情報共有を行っていく ・児童の発達や生活に沿った支援がより丁寧に行われるよう、職員のスキル向上を図っていく
2	保護者との定期的な情報共有を行い、子どもの様子と保護者のニーズに沿った支援方法の確認を行っている	・保護者に対し、訪問支援時の同行、訪問先との情報交換への同席を勧め、支援方法の共有を行っている	・保育所等訪問支援計画等、支援について説明を行う際、ガイドラインを踏まえた丁寧な説明を行っていく
3	訪問先との情報交換を定期的に行っている	・訪問時の情報交換、報告書の送付、電話での相談や対応など、タイムリーな支援となるようにしている。 ・訪問先のニーズ把握や支援方法について、意向確認を都度行っている	・訪問先との定期的な情報共有を継続し、より具体的に園生活に取り入れられる説明助言を行っていく ・訪問先の理念や手法を訪問支援員全員が共有し、支援方法の確認をより丁寧に行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	令和6年度は利用者2名で実績不足である	・今後、利用増加が見込まれるため、訪問支援員としての経験やスキルの蓄積が必要である。	・保育所等訪問支援に係る部内運用体制の整理を行う必要がある ・訪問支援員1名での対応を想定し、訪問前後に多職種の訪問支援員と情報共有やミーティングを行い、連携したうえで訪問にのぞむようにしていく

2	アセスメントを適切に活用するための職員間での情報共有が不十分	・インフォーマルなアセスメントについては、こどもの情報を共有し、ミーティング等を適宜行う必要がある。	・インフォーマルなアセスメントについては特に職員間の差をミーティング等で埋める必要がある。今後、訪問員同士でのミーティングを行い、より丁寧にアセスメントの共有を行っていく。また、外部研修参加や他事業所との情報交換を行っていく
3	訪問先の具体的な非常時対応について、十分な確認を行っていなかった	・非常時の適切な対応について、訪問先の基準を確認する必要がある	・訪問先の非常時対応（緊急時対応や虐待防止、身体拘束）に関する基準の確認を行い、保護者に非常時は訪問先の対応に準ずることを説明する。 ・スタッフに重要説明事項の内容を周知しておき、訪問時の非常時対応ができるようにしていく